神戸高工新聞
毎月一回十日發行
本紙定價 一部 九錢 郵税 五厘
一箇年 五十錢
廣告料 六號一行 金廿錢 記事中挿入二倍 場所指定二割増
發行所 神戸市兵庫区水木通二丁目 振替口座神戸三二一六番 電話湊川 高工新聞部 五〇三八番
印刷人 福井藤一郎 發行人 淵尾武次郎

MATOYA

日本一の港都 神戸の持つ誇

神戸の技術

市電・港灣

機械科生 建築科生 の見た街

M・3 藤平賢

神戸の地は古くより武庫の泊りとして知られ、歴史上には源平時代及び楠氏奮戰の跡として數多の史蹟があり、更に源氏物語の頃よりの名勝須磨を始め附近には多くの名勝地を控えてゐる。

又日本最大の貿易港として經濟的にも重要な地位を占めてゐるが、此等の事柄は既に紹介し盡されてゐると見て差支へないが技術的に見た神戸はどうだらう？此は未だ充分には紹介されてゐない。今如上の歴史的方面等は割愛して主に現代の新興大都市としての神戸市の優秀性特に技術的設備に就いて述べて見よう。他地方出身の新入生諸君には多少參考になる事と信ずる。

神戸市は大都會としては珍らしく立派な背山を持つてゐる。從つて登山の盛んな事は他にその類を見ない。此の裏山は我等に天然の公園として日常の疲勞を癒すに充分である。登山機關として摩耶山にケーブルカーが一つ、六甲山にケーブルカー、ロープウエーが一つ宛ある。その中六甲のロープウエーは全長一五二五米で全國で最長のものである。次に擧ぐべきは市街の全般的の美觀である。街路は山手の邊り、建物は海岸通りが最も美しい。又元町は散歩に快適な事は諸君既に御存知の筈。アロードの夕方はエキゾチックな雰圍氣で知られてゐる。神戸に外人の多いのは今更云ふ迄も無いが、その筈にカナデイアンスクールの如き外人の學校もあるし又支那人の學校もある。教會も甚だ多いのが目立つ。回教の寺院も我が國最初に本市に出來た。其の他外人に關係のある建物が非常に多く、東遊園地には外人劇場があるし元居留地附近には外人倶樂部が多數あり且つ各國總領事館もある。神戸區の東北部の北野には山の中腹に多數の外人住宅があつて、恰も香港の市街の如き觀がある。之等外人の爲に外人墓地や支那人墓地がある。

次に我等工業學徒の關心を持つ事項につき若干述べよう。最初は世界的定評ある市内電車の優秀性である。市電當局の不斷の研究努力に依り、乘心地スピードその他只ゆる點に於て滿點である。その性能の卓越せる事は全國第一なる勿論、世界的に見ても一流に屬するものである。無論木造車は一輛も使用してゐない。七〇〇型のローマンスカー式電車は郊外電車にも必敵するものである。クロッスシートの乘心地は何とも云へない。觀光電車と云ふ名を付て度い位である。尚八〇〇型の新造車には戴が國最初の防音車輪が用ひられてゐる。

之は車輪のタイヤの内側に環狀のゴムを取り附けたもので外國に於ても未だ除り實用化されてゐないもので、神戸市電で研究の結果實用に成功せるものである。次に本市々電の現有車輪の性能を記す。

最高速度　約二五哩毎時（國道線）
表定速度　一〇哩毎時
使用電動機出力最大（一輛に二個宛）三八キロワット
使用電壓　六〇〇ヴオルト
現有車輪數　二八五輛
現在の優秀車輪（定員八八人）七〇〇型（四〇輛）クロッスシート附き
八〇〇型（一〇輛）防音車輪附き

次に市營バスも全國第一の優秀さを持つてゐる。即ち表定速度二十粁、全輛數二五〇臺、機關出力七〇馬至八〇馬力、定員三五人である。最近新造の大型バスは全長七米で、市街を走るバスとしては法規上の最大型である。尚市營バスは電車同樣絶えず老朽車を廢して新車に代へ、常に整式を改めて行く營、他の都市にあるやうな古い車は全然見られない。市電・市バス共に、壽町の工場を持つてゐる。神戸の市電は約十五年前迄は、現在の大阪市電の如きアツキ色であつたが間もなく綠色に塗り變へられ、四五年前にはバスと共に車體の上半部を現在の如きクリーム色に塗られ、非常に調和した美しさを持つ樣になつた。他の五大都市にあるやうなハンドブレーキのついた電車は神戸では約十五年前に姿を消して今では全部エヤブレーキである。木製車輪が無くなつたのは約七年位前の事と思ふ。斯くの如く述べれば際限が無いが、諸君もせいぜい此の立派な電車を乘り、愛し、次には神戸市の最も誇りとする其の港灣設備につき一言しよう。神戸灣の北方に海洋氣象臺の美しい建物が望えてゐる。之は世界でハンブルグと本市にのみあるもので、船舶、海洋に關する氣象を觀測する。そのために海流を調査したりする春風丸と云ふ觀測船を持つてゐる。神戸港は東部の六大突堤、中突堤、兵庫の二大突堤を有し年々二萬數千噸の内國貿易船、五千噸に近い外國貿易船が出入する。港灣設備概況を記せば港内水面積　一八・二三平方粁
防波堤
全長六八三一米（擬定延長）
五三三三米（普通ブイと云ふ）
繫船浮標（普通ブイと云ふ）
は一番から二三番迄ある。その中一三・一六・一七・一九・二三番は二萬五千噸迄、一九・一八・二二番は三萬噸迄の繫船能力ある。突堤の中最大なものは第五突堤で有効延長一〇四二米、水深一〇内至一二米船舶一〇である。
第三、第四突堤には大低、各國の一萬噸以上二萬數千噸の大型船舶が繫留されてゐる。神戸港には從つて又各種のマッチが聳山ある。中で特色あるのを擧げると、神國の有するタックボート（出港船を岸壁から曳き離す船）神龍丸である。之は此の種の船としては東洋最強の出力を持つてゐる。機噸數二三五、推進器二、實馬力四〇〇〇、推進器工業に於て、我が國の經濟上の重要な地位を占めてゐるのである。希くば若し此の優れた大型神戸市を出し再認識されん事を。

神戸の建築寸見

A・3 藤本宏

人間にとつて偶然に藝術と認められるまでであつて、藝術作品と考へるのは無理であらうが、濠洲產の極樂鳥の一種である Lauben vogel なる鳥のつくる巢でダンスホールと稱するのがある。これは據息や孵化の場所であつて、牡が牝をひきつける爲のものであつて、柔かい小枝を集めて地上に巢を據へるのである。若し第一圖に於てP點が赤道の圓に一致するまで又交軸の極の緯度と云ふ。又その緯度はその大圓周の到達し得る最高點をその大圓周と赤道との交點の角度と云ふ。又その緯度はその大圓周と赤道との交點の角度である。赤道を除いたすべての圓周はある軸に關して赤道と平行な線上を動く。だから、圓が一致した時Pは頂點とP點との距離を表す角度となる。此の距離は又交軸のまはりに大圓周が回轉して居る間は變らないといふことは云ふまでもない。又第三圖で測つてもそれは同じだといふことも明白だ。

九十度と角Dとのひらきは又交流（ハ）の距離を示してゐる。これは直接測り得る。若し同一圓周上にもう一つの點があれば、その二點間の距離は全く同じ手順で測り得る。

換算表に依りnautical mile（海里）即ち1 mile per minute of angle=statute mile に變へ得られるが、然しながら次の數値は變えておかれると何かと便利であらう。

100 nautical miles=115.155 statute miles。トラックが又交點に近ければコースをプロットする方法は第四圖の如し。尺度に依り、各分割點として印された多くの點に於て、底Yをその點の緯度と垂直に同點の正弦の長さに取る。そして正の可能の長さに取る。そして垂直に同點の緯度の正弦の長さを計る。しかしながらこの方法にも自ら制限あり、といふのは緯度六十度に於ではその正切は半經の一・七三二倍となるから。それ以上は益々倍加されて不可能となる。しかしながらその距離が四十五度（距離で測つて）なるものには第七圖に示す方法が有効である。

記錄飛行の基礎智識

大圈コースに就て

AERO DIGEST誌より

M・3 深尾正次郎

緒言

近年航空界の異常な發達に伴ひ、その到達する距離も益々延びるに至つた。最直に於ても我が國の神風、ドイツのコンドルが世界一周の飛行機の記錄を樹てたこれらの飛行機の記錄といふものはその離着陸した二地點間の最短距離を測定して行はれるものである。これ即ち大圈コースにしてその測定には種々の法がある。

元來最短距離飛行では、普通用ひられてゐる地圖を用ひ、そしてその發着兩地點間の直線距離を測れば充分である。

しかし地球の曲率半徑を考へに入れなければならない程長距離の場合には、その兩地點間の最短距離を決定するのに「ノモニックチヤート」が用ひられるが此の方法で得た大圈コースを航海圖の上に移さねばならぬ。普通海航用の「ノモニックチヤート」は大なるスペースを取り、又種々の不便を伴ふ。即ち大なる球を平面に表さうとする時等、又大きな歪みを生じて來るのである。

必要な時に適宜「ノモニックチヤート」を得られない飛行機操縱者とか船室の都合上或はその他の理由でこの海圖を有しない航海者の要求を滿たすために次の方法が試みられる。

所の方法は機械製圖で行はれて居る樣な實際の機械圖法である。所謂機械製圖とは建築や他の製圖法ある一つの圖の實際の投影を利用して他へ移すのではなくて、適用せねばならぬあらゆる規則を充分考慮して製圖しなければならないものである。略半徑二十吋のコムパス及びこの半徑を利用し得る樣な分度器、直線定規、これらのものがあれば、その使つてゐる尺度に依りこの間の大圈コースの最も接近した近似値が表とから與へられた資料を用ひすとも測定し得るのである。

大圈コース

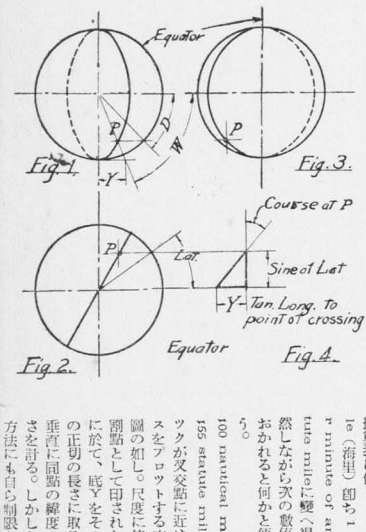
あらゆる地圖の上に地球上のある地方が縮尺平面として表される時、その地圖の中央の尺度も端の尺度もいづれも捩れてゐる。斯樣な地圖の上の直線はあるこの二點間を通る最短距離を表して居るが、この二點間の最短距離を測るには、その差やは不明である。だから次の二點間を通る大圓弧を決定三圖に於ても亦楕圓として表れることは必要なことだ。その大圓周の到達し得る最高點をその極の緯度と云ふ。又その緯度はその大圓周と赤道との交點の角度である。赤道を除いたすべての圓周はある軸に關して赤道と平行な線上を動く。東北部の北野には山の中腹に多數の外人住宅があつて、恰も香港の市街の如き觀がある。之等外人の爲に外人墓地や支那人墓地がある。

次に我等工業學徒の關心を持つ事項につき若干述べよう。最初は世界的定評ある市内電車の優秀性である。市電當局の不斷の研究努力に依り、乘心地スピードその他只ゆる點に於て滿點である。その性能の卓越せる事は全國第一なる勿論、世界的に見ても一流に屬するものである。無論木造車は一輛も使用してゐない。七〇〇型のローマンスカー式電車は郊外電車にも必敵するものである。クロッスシートの乘心地は何とも云へない。觀光電車と云ふ名を付て度い位である。尚八〇〇型の新造車には戴が國最初の防音車輪が用ひられてゐる。

距離

第一圖は赤道平面上に投影したる大圓周足跡を示す。恰もその進路は赤道の上に楕圓を投影したる樣に見える。しかしながらこゝに表された圖は第二圖で明らかな如く赤道とある角をなして傾いた圓である。又それは第三圖に於ても亦楕圓として表れる。

第二圖は赤道平面上に投影したる大圓周足跡を示す。恰もその進路は赤道の上に楕圓を投影したる樣に見える。しかしながらこゝに表された圖は第二圖で明らかな如く赤道とある角をなして傾いた圓である。又それは第三圖に於ても亦楕圓として表れる。



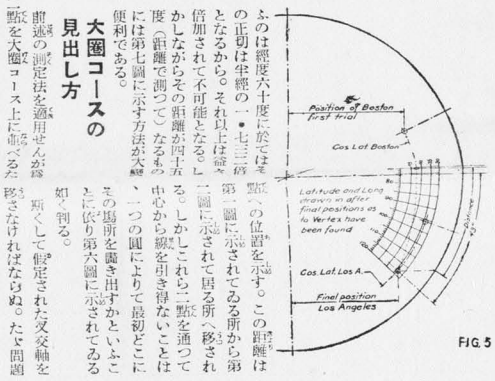


FIG.5

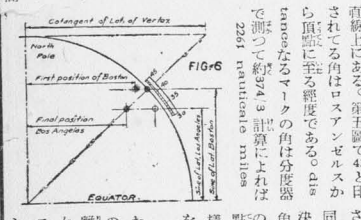


FIG.6

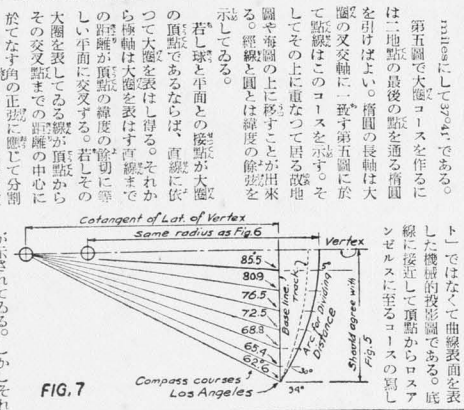


FIG.7

第七圖は「ノモニックチヤート」ではなくて曲線表面を表した機械的投影圖である。底線に接近して頂點からロスアンゼルスに至るコースの寫し

の緯度の差は3°15′である。ただ製圖のサイズとか手の器用さによつて近似的にしか表れないかも知れない。

先づ最初第五、第六圖に於て二つの圓として示されてゐる位置に平面を置かう。第六圖に於てそれらの平面は圓周に沿と平行なる線として表はれる。そして中心を通る線上にはない。それで又交軸を移す必要がある。

第五圖に於ては既に移されてゐる。しかし即ち如く又交軸に關して平面の位置を移すことは同じ方法でよい。第五、第六兩圖に於て二點が二重圓で示されて居る位置へ移された時平面は又交軸を通りそして第六圖に示されて居る如く二點中心を通る直線上にある。第五圖で43°と印されてゐる角はロスアンゼルスから頂點に至る緯度である。distances なるマークの角は分度器で測つて約374.3 計算によれば 2261 nautical miles or about 2604 statute miles にして37°47′である。

第五圖で大圈コースを作るには二地點の最後の點を通る楕圓を引けばよい。楕圓の長軸は大圓の又交軸に一致す第五圖に於て點線はこのコースを示す。そしてその上に重なつて居る故地圖や海圖の上に移すことが出來る。經線と圓とは緯度の餘弦を示してゐる。

若し球と平面との接點が大圈の頂點であるならば、直線に依つて大圈を表はし得る。それから捩軸は大圈を表はす直線までの距離が頂點の緯度の餘弦に等しい平面に交叉する。若しその大圈を表してゐる線が頂點からその交叉點までの距離の中心に於てなす角の正弦に關して分割されれば同樣にして距離は大圈に從つて決定し得るだらう。底線となす角は極を通る線による頂點からの如何なる距離に對しても、頂點の緯度の餘弦として測られる樣にその角といふものはコースをなすだらう。

最初實際の數學公式を記載したことは表明してゐない。がその試みは（又交點に於ては距離の角の正弦が一に等しい時それが即ち半經でありそしてコスの角は頂點の餘緯度と九十度との差）である。といふことだけ

として用ふる事に注意されたし

快晴に惠まれた 皆既月食

觀測寫眞に添へて

E・i 野口登美雄

夜日三月五

約三時間半の間望遠鏡にくつついて、連續的にシヤッターを切つた譯です。次第に缺けて行く月樣を眺めながら、地球の圓錐形の影があそこ迄廻つてゐるのだなと思ふと、何だか感慨たる氣持になりました。次に顯著に、撮影のデータを記して置きます。

四吋攝物鏡鏡（f九、自作）

（順序　左上より右へ）

露出　五〇分の一秒乃至二・五秒

的要素を必要とするのであるがいひ、煙突の煤け……といひ氣味が悪いものである。建物の性質上困難なのはやむをえまいが廣告に對する建築意匠的考慮が全然忘れられてゐるといへよう。この建物とその前を疾走する汽車電車を見て純粹に美的な要求から機械の形態に意匠を擡げ、機械美を建築の改善に提唱した機械美の聲が今更の如く想ひ出されるのである。その當時都市美を浮すといふ理由で反對されたといはれる品川線は、今

時代的流潮の差異を如何に處理するかについて、將來にみられる三越、十合の增築の結果に興味があらう。

神戸驛舎の遠信省の建物。正方形に近い大きな窓と、淡緑色タイル壁の意匠的効果により、窓枠の意匠的効果も減殺されようが、背景樣御獨特のユーアンスな感じを印象つけられる。屋上に頂塔との釣合はどうかしらん。

内部天井、床、壁ともモザイクタイルを貼つめ、全タイルの建物かと思はれる阪急百貨店の廣告

やスマートな近町驛を捧してゐるのであるが、この驛について以上數個の建物を例に擧げ、その中の金と砂とを見わけできた積りであるけれども、金と砂を逆にしたり或ひは混せてしまふた樣な過ちをおかしたかも知れぬ。尚長方形の圖取のものばかりについてみた樣であるが、外に三角形内至圓形を頂いた長方形のものもあることとて、纏にて力の及ぶ範圍内で述べたことを諒とせられたい。

染料と醫藥工業藥
•理想洗濯にモノゲン•
ホテン堂
西代停留所下ル三軒目
電話 湊川 一七二六番

文房具
印刷
製圖用品
兵庫區水木通四丁目
井原藤一郎商店
電湊川0812

創業明治三年
元町の
平村寫眞館
神戸市神戸區元町六丁目
電話元町④一〇四九

古本高價買入
後藤書店
三宮町一丁目
そごう前西入半丁

本誠実買入
前ワタ戸神
上崎書店

校章入り
ノート・封筒・レターペーパー
其ノ他各種學用品……雜誌……
高工正門前
藤尾文具店

全兩強美
廉低格價
ヤエカサ
阪本靴店
前門正工高
電話須磨一八一

御洋服の新調は
スマートで丈夫な
弊店へ!!
高工指定
マトヤ洋服店
高工通用門前
電話湊川二一二七番

夏服
レインコート
の御用命は
高工指定
三谷洋服店
神戸高工通用門前
電話湊川二一六七番

出版物
雜誌
新聞
專門印刷
合資會社 藤井印刷所
神戸市葺合區八幡通四丁目
電話葺合二六七五番
振替口座神戸三二一六番

高工評論

科學と高工生

近時「科學」なる言葉が凡ゆる領域の人から聞かれる樣になつた。其は此の事變に於ける工業に就いて云はれる場合もあるが、もつと深く哲學的、思想的或は社會的な立場に於て論じられ、科學ペンや科學主義工業等といふ雜誌が盛く讀まれる傾向にある今日、我々科學の一端にたづさはる工業人の科學と云ふものに對する態度を一應反省して見るのも無駄ではないと考へる。我々科學に緣あるものはその社會的地位や社會的發言權と云ふ樣なものが他の政治、經濟、文學に たづさはる人達の下に置かれる事を殘念に思つてゐるが哲學、文學、其の他一般社會に於てまで科學者は科學精神と云つた事が問題となつて來た今日我々工業人は果して科學といふものは物質的に於てのみでなく精神的にも他の部門に劣らず偉大であるといふ事を一般の人に納得せしめ得る丈の思想を持つてゐるであらうか。

高工生自身の場合に就いて云へば專門智識としての科學的智識以外に科學自身の意味、科學精神に觸れる思考を如何程持つてゐるだらうか。然るに我々は文學に於て普樂に於て非常な關心を有し、又その智識思考と云ふものは他の專門部門の學生と大なる差を認め得ない位である。又我々の生活を省み學業に於て果してゐるであらうか、ごく狹いものゝ樣に見られる事を遺憾とするにも拘らず、眞に科學の條大さを、技術の精神を認識してゐるだらうか。吾人は工業學徒たるものが、現在文學、普樂宗教等に對して有する關心の幾分かを科學の精神といふものに對して拂ふ事が緊要であると思惟する。

科學の精神を知らざる技術は不具である。昨年の阪神の水害、科學は物質的にのみ取扱はるべきでないことを知りつゝも、我々は科學を精神的に生かさなかつたのではないか。

良心に生きる眞の道德の人は個々の科學的智識を多くは知らずとも科學精神を了解するであらう。眞の藝術家も政治家も。

同じ樣に眞の科學精神の持主は個々の藝術的智識は多くを知らずとも美を解し、良心の人であるべきであらう。

吾人は敢て工業人の科學の精神に對する反省を求め、一般社會人に眞の科學を了解せしめる樣な工業人の人格を期待する。

科學は世間の人が科學の精神を知らずに技術を濫用したからである。

科學は自然と一致する。偉大なる科學者の自然に對する態度は偉大なる藝術家の其と同じである。

我々は科學と云ふものを明瞭に定義づけられないでも、科學精神をはつきり言葉に表は し得なくとも、漠然とした科學精神を感じる丈で、勉學に於て、生活に於て良心的な態度も取り得るのである。

科學精神に對する反省を求め、一般社會人に眞の科學を了解せしめる樣な工業人の人格を期待する。

なれば、藥師寺の聖觀音も安んじて東院堂に法を說かれようこの美しい夕に、この美しい堂塔の美しい天平の佛は何を夢みようとするのか。

奈良の夜は大文字屋旅館に泊る東京の美術學校の生徒學校の生徒は仲々おとなしい、中年の女中が背髓を痛む七歳の子の話をする、靜かな宵である。

夜飛鳥園に行く、案の定美校の生徒二人先客である、飛鳥園はひなびた主人が奥に引込んで靜かである、藥師如來をスケッチして以來手の表情が面白いと思つてゐたら他にも同好の士ありと見た丁度佛の手ばかりの寫眞があるが、彫塑の參考にもなるだらうし第一面白い、そこで藥師寺の思惟像の右手を賣ふ、餡がなくて白い手ばかり黑い中に浮いてゐると色々と指先の動きから願を、身體を佛の思ひを驅想、冥想する、今もこの小文を草しながら驅間にこの手を眺めてゐる、木の匂ひの香りする樣に引き入れられる、他意のない純粹の寫生をとこんまでつきつめて來てこの時明に至つたものである。

次に電磁石の裝作について述べる。

（第三面より）

讀者動靜

中原　英一（機三）
勁先　大阪府豐能郡庄内村洲
到止三五九
理研無線工業株式會社大阪工場
住所　武庫郡瓦木村高木字東ノ口二三四
二木　正年（同十二）
住所　吳市寺本町二二六　山田方
高田　雅弘（同十一）
勁先　三菱重工業株式會社橫濱船渠
住所　橫濱市神奈川區上反町一六泰山莊内
吉原　唯雄（同十三）
住所　神戸市林田區池田廣町一二三　鹿野方
黑山　忠男（同四）
勁先　北京東長安街
北京華北交通株式會社
住所　北京内二區大棚關官馬司甲一九號　岩永單宇方
留守宅　魚崎町眞福一六二ノ一
三浦　周（同十一）
勁先　海軍兵術學校學生舍
住所　橫濱市磯子區六浦町四四一七
中原　英一（同三）
勁先　大阪府豐能郡庄内村洲
到止三五九　理研無線工業株式會社大阪工場
住所　兵庫縣武庫郡瓦木村高木字東ノ口二三四（但シ阪急西宮北口東北一キロ）
中井　市治（同五）
勁先　兵庫縣加古郡二見町福里　東亞金屬工業機式會社
住所　兵庫縣武庫郡瓦木村高木字東ノ口二三四
岸人　丈夫（同十三）
大阪市北區東野田町九丁目
大阪帝國大學工學部機械工學科
大阪市北區東野田町五丁目永

尾光太郎方
河野　幸男（同二）
勁先　福島縣立會津工業學校
住所　福島縣若松市東名子屋町十番地ノ十三
中林壹一郎（同十一）
勁先　東京市品川區大井鮫洲町二三七
東京府立電機工業學校
原田　英夫（同十三）
應召入隊五月四日午後九時廣島電信第二聯隊
高木　立也（同十）
住所　西宮市屋敷町一二六
勁先　尼崎市東向島　住友金屬工業鋼管製造所
五百藏俊男（同十四）
滿洲國新京南嶺
山口部隊當井隊
柴田　健三（十七）
住所　兵庫縣武庫郡瓦木村甲子園口松葉アパート内
勁先　大阪市水道部下水建設課
藤本　輝文（同四）
中支派遣山田部隊平木部隊
鐙坂　角朗（同八）
朝鮮京義線金村驛
倉資會社中村組出張所
藤枝　雍生（同八）
朝鮮總督府鐵道局建設課設計係
佐藤　浩三（同五）
北支派遣今村部隊氣付和田部隊本部
山本　晴一（同六）
滿洲國新京南嶺
山口部隊當井隊
山本　幸一（同三）
滿洲國奉天市紅葉町一三番地
三ノ四（星姑屯工務區）
丸中不二夫（E七）
吳市和庄通三丁目七七ノ三
日立製作所吳出張所
會根　三郎（同一〇）
大阪府北河内郡眞
松下無線株式會社無線部

尾光太郎方

古い寺　古い佛

流るゝ世に流さるゝ身の流れともなく年々年毎に新なれども而も不易の古寺に古佛にすがらむとする身は……
嗚呼漂泊の身にしある哉

A・3　地迂生

藥師寺金堂にて

正直な所朝に見た時は別に大して感激もなかつた、當時はその漆黑の體軀の意表外だつたのに何かしら反撥するものがあつたのであらうか、と云つて當時は見る前からその體軀の色を像想の中に明白に意識してゐたわけではなかつた、唯腹の底の一隅で何となく遠い世の俗かな疲れもみえる樣ないゝ色らしい氣がしてゐたらしいのである、そこへもつて來て物凄い黑光りが眼を射たのだからつい反抗心が起きたのかもしれない、先入主は小たり狹なるが故に強いのであらうか、

或は又それに加ふるに生理的な、又は精神的な理由もあつたのかもしれないが――正直な所朝に見た時は大して感激もなかつた

以上朝口上を長々とやつたのはそれに對比して今度のショックが如何に强かつたかを云ひたいからである

今度は黑色だといふ色の像期はあつた、しかしその黑は想出の中に既に光澤を失つてゐる。

前の像期の過大に比して今度の像期は過小だつたせいであらうか、重い戸が重く開いてしづ〳〵と御堂の中をのぞき込む眼がオヤとうろたへたのは先づ――あゝ何と云ふ悠々たる輝きの黑か、

顯には春の月光もとろとろと流れさうな、和辻博士は霧恋の涙の種くばかりであると云ふ

春の月光に佛と我と
ぬれてあり

幻想もわかうではないか、向つて向朝からスケッチする、衣文の伸び、腕の大らかな厚さ、口から首への强さ、前にたれ下る金色の布の美しさは飛鳥の法隆寺語彙以上ではない。スケッチしてみてはじめて指先の微妙に鋭敏する、涙にぬれた霧恋の涙にすがらむとする身は……

T も小生も、遂にさとをなげる

T も小生も、遂にさとをなげる脳士について和辻博士によると石がいゝけれども本物に比べると遜かに劣る、謂し作家は三體とも別人ならむ云々とある。

外に出ると初夏の日射に新綠の影が眩く輝ふ、磯が白い、車塔が靜に立つ、この作家の顔が見たい

行く雲と
千年の塔を仰ぎけり

藥師寺東院堂にて

金堂の如來樣は美しい體軀を間に合せのバラックにもてあましてゐる、こゝの聖觀音は――御厨子が完全なものだし、彩色の美さは金堂よりもしつくりする。

この佛像は前に見た時は如來樣の樣に色等は問題でなかつたが、とりたてゝ顏素ないたちでもないのに何となく顏凜に足から頭まですつくといふ形容詞がぴつたりあてはまる姿で立つて遠く遠く眺めてゐた想出のこの佛樣は實物より大分小さかつた。

前に見た時色を問題にしなかつたのは餘程このすつくと立つた形相の美に魅せられて色どころぢやなかつたものらしい、それに元々彫彫には殊さらな彩色は排すべしと云ふ先入主があるこの佛樣は自然な色をしてゐる、しかしこの先入主が逆に作用すると金堂の佛の樣に極端に色が問題になる。

想出のうちに丈が低くなつてゐる。我々科學に關する思考を如何程持つてゐるだらうか。然るに我々は文學に於て普樂に於て非常な關心を有し、又その智識思考と云ふものは他の專門部門の學生と大なる差を認め得ない位である。又我々の生活を省み學業に於て果してゐるであらうか、ごく狹いものゝ樣に見られる事を遺憾とするにも拘らず、眞に科學の條大さを、技術の精神を認識してゐるだらうか。吾人は工業學徒たるものが、現在文學、普樂宗教等に對して有する關心の幾分かを科學の精神といふものに對して拂ふ事が緊要であると思惟する。

科學の精神を知らざる技術は不具である。昨年の阪神の水害、科學は物質的にのみ取扱はるべきでないことを知りつゝも、我々は科學を精神的に生かさなかつたのではないか。

良心に生きる眞の道德の人は個々の科學的智識を多くは知らずとも科學精神を了解するであらう。眞の藝術家も政治家も。

同じ樣に眞の科學精神の持主は個々の藝術的智識は多くを知らずとも美を解し、良心の人であるべきであらう。

吾人は敢て工業人の科學の精神に對する反省を求め、一般社會人に眞の科學を了解せしめる樣な工業人の人格を期待する。

科學は物質的にのみ取扱はるべきでないことを知りつゝも、我々は科學を精神的に生かさなかつたのではないか。

良心に生きる眞の道德の人は個々の藝術的智識は多くは知らずとも科學精神を了解するであらう。眞の藝術家も政治家も。

同じ樣に眞の科學精神の持主は個々の藝術的智識は多くを知らずとも美を解し、良心の人であるべきであらう。

吾人は敢て工業人の科學の精神に對する反省を求め、一般社會人に眞の科學を了解せしめる樣な工業人の人格を期待する。

科學は物質的にのみ取扱はるべきでないことを知りつゝも、我々は科學を精神的に生かさなかつたのではないか。

良心に生きる眞の道德の人は個々の藝術的智識は多くは知らずとも科學精神を了解するであらう。眞の藝術家も政治家も。

同じ樣に眞の科學精神の持主は個々の藝術的智識は多くを知らずとも美を解し、良心の人であるべきであらう。

吾人は敢て工業人の科學の精神に對する反省を求め、一般社會人に眞の科學を了解せしめる樣な工業人の人格を期待する。

科學は物質的にのみ取扱はるべきでないことを知りつゝも、我々は科學を精神的に生かさなかつたのではないか。

良心に生きる眞の道德の人は個々の藝術的智識は多くは知らずとも科學精神を了解するであらう。眞の藝術家も政治家も。

同じ樣に眞の科學精神の持主は個々の藝術的智識は多くを知らずとも美を解し、良心の人であるべきであらう。

吾人は敢て工業人の科學の精神に對する反省を求め、一般社會人に眞の科學を了解せしめる樣な工業人の人格を期待する。

科學は物質的にのみ取扱はるべきでないことを知りつゝも、我々は科學を精神的に生かさなかつたのではないか。

良心に生きる眞の道德の人は個々の藝術的智識は多くは知らずとも科學精神を了解するであらう。眞の藝術家も政治家も。

同じ樣に眞の科學精神の持主は個々の藝術的智識は多くを知らずとも美を解し、良心の人であるべきであらう。

吾人は敢て工業人の科學の精神に對する反省を求め、一般社會人に眞の科學を了解せしめる樣な工業人の人格を期待する。

科學は物質的にのみ取扱はるべきでないことを知りつゝも、我々は科學を精神的に生かさなかつたのではないか。

良心に生きる眞の道德の人は個々の藝術的智識は多くは知らずとも科學精神を了解するであらう。眞の藝術家も政治家も。

同じ樣に眞の科學精神の持主は個々の藝術的智識は多くを知らずとも美を解し、良心の人であるべきであらう。

吾人は敢て工業人の科學の精神に對する反省を求め、一般社會人に眞の科學を了解せしめる樣な工業人の人格を期待する。

科學は物質的にのみ取扱はるべきでないことを知りつゝも、我々は科學を精神的に生かさなかつたのではないか。

良心に生きる眞の道德の人は個々の藝術的智識は多くは知らずとも科學精神を了解するであらう。眞の藝術家も政治家も。

同じ樣に眞の科學精神の持主は個々の藝術的智識は多くを知らずとも美を解し、良心の人であるべきであらう。

吾人は敢て工業人の科學の精神に對する反省を求め、一般社會人に眞の科學を了解せしめる樣な工業人の人格を期待する。

科學は物質的にのみ取扱はるべきでないことを知りつゝも、我々は科學を精神的に生かさなかつたのではないか。

良心に生きる眞の道德の人は個々の藝術的智識は多くは知らずとも科學精神を了解するであらう。眞の藝術家も政治家も。

同じ樣に眞の科學精神の持主は個々の藝術的智識は多くを知らずとも美を解し、良心の人であるべきであらう。

吾人は敢て工業人の科學の精神に對する反省を求め、一般社會人に眞の科學を了解せしめる樣な工業人の人格を期待する。

科學は物質的にのみ取扱はるべきでないことを知りつゝも、我々は科學を精神的に生かさなかつたのではないか。

良心に生きる眞の道德の人は個々の藝術的智識は多くは知らずとも科學精神を了解するであらう。眞の藝術家も政治家も。

同じ樣に眞の科學精神の持主は個々の藝術的智識は多くを知らずとも美を解し、良心の人であるべきであらう。

吾人は敢て工業人の科學の精神に對する反省を求め、一般社會人に眞の科學を了解せしめる樣な工業人の人格を期待する。

科學は物質的にのみ取扱はるべきでないことを知りつゝも、我々は科學を精神的に生かさなかつたのではないか。

良心に生きる眞の道德の人は個々の藝術的智識は多くは知らずとも科學精神を了解するであらう。眞の藝術家も政治家も。

同じ樣に眞の科學精神の持主は個々の藝術的智識は多くを知らずとも美を解し、良心の人であるべきであらう。

吾人は敢て工業人の科學の精神に對する反省を求め、一般社會人に眞の科學を了解せしめる樣な工業人の人格を期待する。

科學は物質的にのみ取扱はるべきでないことを知りつゝも、我々は科學を精神的に生かさなかつたのではないか。

良心に生きる眞の道德の人は個々の藝術的智識は多くは知らずとも科學精神を了解するであらう。眞の藝術家も政治家も。

同じ樣に眞の科學精神の持主は個々の藝術的智識は多くを知らずとも美を解し、良心の人であるべきであらう。

吾人は敢て工業人の科學の精神に對する反省を求め、一般社會人に眞の科學を了解せしめる樣な工業人の人格を期待する。

アマチュアの地震計（續）

A・2　前川修二譯

前掲アマチュアの地震計に關して東大、○○○○地震研究所長石本博士から部長瀨尾教授に御懇切なる御返事をいただきましたこゝにあはせ掲せて厚く御禮申上げます

瀨尾教授の御手紙を頂く

有難く御禮申上候

過日御送り申上候ものは實は先年一層詳しく書上げ、其の複寫にて甚だ心苦しきものに候へど も近き中に印刷となり御手元に配付されるものと存じ居り候

波動を記錄するには毎日煤で黑くすすられた一枚の紙をドラムの上に捲くその幅はドラムの長さと等しく、長さはドラムの周圍より約二吋長くしその端を第8圖の如くこつに折つて小量の糊でとる。紙は任意であるが隙間紙が一番良いと發見された。紙は透明で鐵筆に對してすべ〳〵した表面を持つてゐる紙を取り付けるときにそれが滑らないと容易にドラムからぬけ得る樣に糊をつける時注意を要する。第7圖と同に樣な二つの支え h・b 或は第8圖の（A）の如き鐵にて居る腕木は記錄の室には見え入り行燈等か何かを番人の女人が美しい横顔にひそやかに讀んでゐる――「上人……」

ひとよひとよとよびたまふ……

春の博物館はかすかに寒い、

博物館は一日で一度に觀るのもおもしろい、印象が雜然としからなくなつて何がなにやらわからなくなつてゐる。それでも雜多な感激の殘滓が泥んで異な興奮狀態に陷る

塔で、飯神のニュースで獨乙の美術館内の數々の名畫の大つしを觀て驚いたことがある素晴らしい機械と技術であつた美の再現、いや創造である。

その數々の名畫の前にイゼルを立て、春の日永を悠々と名畫の模寫にくらす多くの畫家があつた。畫家の中にはお嬢さんの畫家さへあつた。

その春の日永の獨乙美術館の悠々たる雰圍氣に私は藝術の國獨乙の永い〳〵傳統のもつ力をかく樣な氣がした、羨ましかつた日本の美術館にこの人間くさい清潔のあるか。

今、玉藻庭園の前に長閑な風景を見た、讀具一式をたづさへて奥さん助手に厨子の前に悠然とあぐらをかいて坐つてゐる人がゐる、正面に觀音を模寫してゐる、日本の美術館にも尚さうした清潔はあつた、私は佛びびとした氣になつた、おめでたい氣がした。

尤もその人は果してどんな百的どんな氣持でこの御厨子の觀を模寫してゐるのかは今問答ではない。

萬葉植物園にて

こゝは人場券が秀逸である。

大宮人が何か知らぬが遥い世の人を本版にしたらしい都雅なとかで今日はさつぱり元氣がないのである。

萬葉も殆んど知らぬと同樣

も咲く花かも立つ
軒丹咲いて
礎石大らかに息づけり

千年の昔の二十餘歳の天才建築家の氣魄は今二十世紀の二十餘才の驛迫して來る、

奈良に歸る、高工電氣を今年出て阪大に入學したうれしい先輩四人に會ふ

角觀の氣宇大らかに
角とがる
御驛走になつて分れる

輕寫門にて

輕寫門には比例の公式がかくされてゐないか、この御驛のはづれにこの均齊美を發見するとはつとする、全體の高さと正面の長さとの關係、柱の太さ、屋根の面、白壁の面、眼前の門ではあるがびくともしないと云つたつらだましひである。

スケッチする、長さを大體測つてその通り描かうとすると實際みる感じより稍横長になる、小學生がよつて來たので早々に止めてひきあげる

大佛殿の裏の靜かな池のはたに凝つた二人で何となく春の話をする、柳の赤い女人が三人向ふ岸で春の池に春の小石をなげる

小さな波紋も春の小波である

正倉院の前を通る

杉木立端然と古りぬ
正倉院

三月堂にて

二月堂から三月堂に行く、夕闇薄くせまつて行人もない、

灯ともりぬ

飛鳥園にて

夜飛鳥園に行く、案の定美校の生徒二人先客である、飛鳥園はひなびた主人が奥に引込んで靜かである、藥師如來をスケッチして以來手の表情が面白いと思つてゐたら他にも同好の士ありと見た丁度佛の手ばかりの寫眞があるが、彫塑の參考にもなるだらうし第一面白い、そこで藥師寺の思惟像の右手を賣ふ、餡がなくて白い手ばかり黑い中に浮いてゐると色々と指先の動きから願を、身體を佛の思ひを驅想、冥想する、今もこの小文を草しながら驅間にこの手を眺めてゐる、木の匂ひの香りする樣に引き入れられる、他意のない純粹の寫生をとこんまでつきつめて來てこの時明に至つたものである。

次に電磁石の裝作について述べる。

（第三面より）

讀者動靜

（第三面より）

中原　英一（機三）
勁先　大阪府豐能郡庄内村洲
到止三五九
理研無線工業株式會社大阪工場
住所　武庫郡瓦木村高木字東ノ口二三四
二木　正年（同十二）
住所　吳市寺本町二二六　山田方
高田　雅弘（同十一）
勁先　三菱重工業株式會社橫濱船渠
住所　橫濱市神奈川區上反町一六泰山莊内
吉原　唯雄（同十三）
住所　神戸市林田區池田廣町一二三　鹿野方
黑山　忠男（同四）
勁先　北京東長安街
北京華北交通株式會社
住所　北京内二區大棚關官馬司甲一九號　岩永單宇方
留守宅　魚崎町眞福一六二ノ一
三浦　周（同十一）
勁先　海軍兵術學校學生舍
住所　橫濱市磯子區六浦町四四一七
中原　英一（同三）
勁先　大阪府豐能郡庄内村洲
到止三五九　理研無線工業株式會社大阪工場
住所　兵庫縣武庫郡瓦木村高木字東ノ口二三四（但シ阪急西宮北口東北一キロ）
中井　市治（同五）
勁先　兵庫縣加古郡二見町福里　東亞金屬工業機式會社
住所　兵庫縣武庫郡瓦木村高木字東ノ口二三四
岸人　丈夫（同十三）
大阪市北區東野田町九丁目
大阪帝國大學工學部機械工學科
大阪市北區東野田町五丁目永

尾光太郎方
河野　幸男（同二）
勁先　福島縣立會津工業學校
住所　福島縣若松市東名子屋町十番地ノ十三
中林壹一郎（同十一）
勁先　東京市品川區大井鮫洲町二三七
東京府立電機工業學校
原田　英夫（同十三）
應召入隊五月四日午後九時廣島電信第二聯隊
高木　立也（同十）
住所　西宮市屋敷町一二六
勁先　尼崎市東向島　住友金屬工業鋼管製造所
五百藏俊男（同十四）
滿洲國新京南嶺
山口部隊當井隊
柴田　健三（十七）
住所　兵庫縣武庫郡瓦木村甲子園口松葉アパート内
勁先　大阪市水道部下水建設課
藤本　輝文（同四）
中支派遣山田部隊平木部隊
鐙坂　角朗（同八）
朝鮮京義線金村驛
倉資會社中村組出張所
藤枝　雍生（同八）
朝鮮總督府鐵道局建設課設計係
佐藤　浩三（同五）
北支派遣今村部隊氣付和田部隊本部
山本　晴一（同六）
滿洲國新京南嶺
山口部隊當井隊
山本　幸一（同三）
滿洲國奉天市紅葉町一三番地
三ノ四（星姑屯工務區）
丸中不二夫（E七）
吳市和庄通三丁目七七ノ三
日立製作所吳出張所
會根　三郎（同一〇）
大阪府北河内郡眞
松下無線株式會社無線部

新緑の五月の魅力と画名ひとしほ高し

九日より廿世紀フォックス
大スター・ザン
グレン、モーリス　エレノア、ホーム主演
大學三人男
リッツ、ブラザース主演

十五日より
大スター・ザン
廿世紀フォックス
二國旗の下に
ロナルド、コールマン　クローデット、コルベール
ヴィクタ、マクラグレン主演

十九日よりRKO超特作
ステージ・ドアー
キャザリン、ヘプバーン　ジンジャ、ロヂャース
アドルフ、マンヂュウ主演

廿世紀フォックス
人妻日記
ワーナー、バクスター　マーナ、ロイ主演

廿五日よりワーナー超特作
白衣の天使
ケイ、フランシス　アイアン、ハンター主演

ワーナー
四人姉妹
レーン三姉妹主演

神戸　ケイト映画館

クラス會歡迎會は……
吉本食堂で
美味＝迅速＝廉價

時計とめがね
吉田時計店
西代電停下

縣人會クラス會
は是非共
クラス會歡迎會に
大
安へ
湊川本通店電話（五）五一四五六二
新開地支店電話五一三三二三

AMERICAN AND EUROPEAN-STYLE
RESTAURANT,
BEEHIVE
REST KOBE AURANT
"SUKIYAKI,,
UPSTAIRS
Motomachi I-chome (Main Street).
KOBE
TEL. SANNOMIYA 1098

専門學校中等學校御指定
＝眼鏡は何處よりも＝
西村眼鏡店
神戸市元町五丁目
電話元町〇八一九番

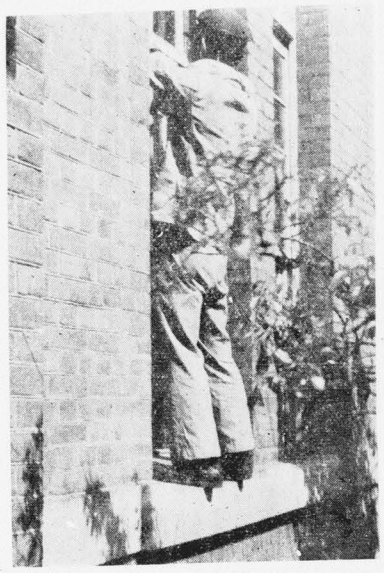
記念寫眞の
御撮影は當館で
高工正門横
池澤寫眞館

紅屋の珈琲
TEA ROOM
西代　紅屋茶房

洋服
ノ店ルア用信
立仕ルア仕責
山定
洋服店
神戸元町四

快晴に惠まれ 恒例の勞働デー

五月一日行はる



新緑の五月一日年中行事の一つとして勞働祭仕が行はれた、快晴の陽光がグランドのクローバーに燦々と降りそゝいで早くも春を見せた、つぼみが低く輝快に飛び廻る、此の二三年は見られないが今日こそは笑つ薬服も漂をし、勞働者が互を組んでのデモストレーションをする日である

それに全く趣を異にする行事が本校の勞働祭仕である

午後一時サイレンに作業服の全員が所定の場所に集合した、作業服の偉観はメーデーならでは見受けられず、壇上に現れた松本教授の本校勞働祭仕の趣旨を一通し、その得る所を述べ島田教官の合図により直ちに作業開始となる、各持場に分配せられた補給道具が忽ち消える、五分とたゝぬ内に各位の窓に人が現はれる、今日こそは、誰もが一緒に働くのだ、平常無用の雰囲に手を觸れなかった貴公子然たる者も各自物なれぬ手付で物々しい補給ぶりである、中には一團となりクローバーの上に春光を浴びながら談笑に花を咲かせてゐる、プールでは快晴とはゝ云へ未だうら寒い時期柄になつて土にまみれての大掃除である水泳部とは云へ、餘り氣の毒である、

補給が進み午後三時頃になつて、待ちに待つたおやつが出たゆゝつくりそれを頬張りながら、再び作業に取りかゝる、やがて午後三時半、一條のサイレンと共に集合した作業服隊の面々は何れも愉快さうな樂しさうな光に輝いて居る、松本教授の講評も慣して良好の成績であるとの事である、其の外に二三の注意あつて後解散した

勞働祭仕の終つた後の爽快な氣分に浸る此の心境は今後の活動に於てより良上のそれを期はれる事だらう

★　★　★

新緑の下に熱戰展開

王座は果して何科？

果然湧く今後の興味

陽光燦然と映え新緑したたる高取山を背景に我築が赤色の現今の下、初夏の香漂ち薫れたグランドに若人の熱と意氣は各所に熱戰となり展開せられつゝある。

人一齊に非常時風難を吹び國民精神總動員のスローガンが叫ばれる今日、意氣正に天を衝く我學年が目覺ある國體的精神により年中行事の中最も血を湧かす各科對抗試合を以て心身を鍛練することは現代青年の最も必要とする所のものであると同時に、國家の爲にも誠に意を強うするものである。

茲數年間連續に輝く土木は王座を守り得るか？新進氣鋭の多數の新人生を擁する機械電氣兩科互に王座に肉迫せんと虎視眈々としてゐる。

一方往年の全盛時代に復活せんとする建築あり、依然として土木強豪を退け得るか、結果は正に多大の興味を呼ぶ

建築連覇か

野球戰先づ開く

新學期は對抗試合からとでも云ひたい位に各科の興味を擅ふ此の試合そのトップに、野球が展開された、野球の試合か應援の試合か知らないが悉らく外から見たら、野球の試合とは思はぬらしい、各選手は觀衆によつて動かされてゐるそうなものだ、球の飛ぶ毎にその球の行方所奇聲が迫ひ歡聲がつきまとふ然しあれはど愉快な試合はない

土木　建築

對抗試合の嚆矢は昨年の覇者建築に、全種目の優勝者土木、戰前の陸軍といつた樣のものはないとしても、兎に角下馬評によると、五分々々らしい、應援は土木が壓倒的の勝利で、建築は鬱々と言ひたいがそれもないらしい、まさに數年間のそれと較べる時は隔た今昔の感あり、しかし結果は、應援に負けた建築が追ひつ追はれつのシーソーゲームの末、最後に打棄つて先づ第一戰を得た

建築	1 0 1 0 0 4 A	4
土木	0 0 0 1 1 1 0	3

電氣　機械

優勝候補同士の一戰、戰前既に事實上の優勝戰を豫想されてゐたが、戰妙まるや兩軍秘術をつくして此の一戰に護ひ立ち、最後迄豫斷の許されぬ熱戰を續け、一方兩軍の應援團も此處を先途と頑張つたが、結局機械あつ氣なく凡失に潰え去つた、兎に角優勝を豫想される此の一戰は對抗試合中の白眉であつた事は確である

機械	1 0 0 1 0 0 0	2
電氣	0 0 0 3 0 1 A	4

建築　電氣

僅ばかりの應援を受ける建築は此試合は駄目と見くびつたのかそれとも富然俺のものだと云ふべき所かそれにひきかへエレキはやはりと全部居殘つての應援だ、さすがに土木の向ふを張るだけあるエレキだ、然し今日は何んとなく力が拔けてゐる遠別會に氣を取られて居るのか。時々敵のエラーにどうと歡聲上る果然建築がエレキを引離したがエレキもさるもの、追ひつく追ひついて行く、然し結局エレキの敗けとなる、此の試合は動會の開催の発と絶望な今日、學校生活に於て唯一の潤ひとして的存在であるだけに學生の期待は當然大なるべきであるこゝの原因を更に考へるならば、各部に於て充分の準備がなされてゐるのではないかと思ふ、之は車に試合といふ事だけではなく、試合前に於てスケジュールの他部との連絡とか、試合そのものに對しての學生への徹底等と言ふ事も含み合されると思ふ、更に遺憾な事は各科に於ける對抗試合の選抜に際して、之が果して勝つための最善のチームであるかどうかは怪しいと何人かの感じがしないでもない、從つて學生全體に熱のない事は當然の事とも言へる、要之に學校全體が對抗試合といふものに意義を認めてゐるとは言ふ迄無論、毎年の例としてただけで之を行ふのであればそれ寧ろ逆効果とも思ふ、選手の選抜に際して、之が果して勝つための最善のチームであるかどうかは怪しいと何人かの人數をよせ集めた、そんな感じがしないでもない、從つて學生全體に熱のない事は當然の事とも言へる、要之に學校全體が對抗試合といふものに意義を認めてゐるとは言ふ迄無論、毎年の例としてただけで之を行ふのであればそれ寧ろ逆効果とも思ふ、更に遺憾な事は各科に於ける對抗試合

創作

其頃

Auf harailonlonism

A・3 彦坂

其頃、無意識の世界から、意識の世界へ、芽生へたばかりの彼は、既に若さをはじむ調濃の眼鏡に射、かれて、われと其身をさいなむ事に居た。水ぬるむ吾の小川に春かぶ小魚が、水底におのが影を引く様に彼の魂は遠く彼の肉體を抜け出て冷やかに脱殼をながめて居た。

丁度其頃、若い國日本の象徴たる青鯛の誕生が初まつたのであつた。

其うした若鯛の頃だつた。友の一人が県役から姿を消して、久しい間出版したかつた、彼に何となく不安な気がして、落着かなかつた。二日毎に青鯛は目に七七様になつて行き、其等のはずしい見づかひに寒気はしつこく重かつた。すべてが成長のいろこにぬりつくされたかの様な其頃、一群はもう其の歸途につかうとしるるさびしい道に、一群は此れから其の新しい一歩を踏み出さうとして居た。

かんきの出發前の眠しつぶされる様な憂鬱が彼の緩をとざして敷目した。突然友が五月のぬかるみをふんで彼の宿を訪れた。二人とも何も云はなかつた。

それは苦しい沈黙ではなかつた、さうしてる時のがお互の氣持はすつと〜瞬かに通じ合ふ沈黙だつた。しばらくすると、うつむいた友のくひしばつた唇の内からたまりかねた、ずゝりなきがこぼれたのだつた。丁度其は嬰子供が泣きにやくる時の様だつた。友は死を決して遠くるさとを、さまよつて來たのであつた。荒帝たる気持であてどなくさまよふ彼の足は次第に圓を描きながら次第に母親の住ひの方へと引きつけられて居つた。それて彼はすべてを受入れる心と近づき難いものにして居たのであつた。

緩のだれもかれもが裕夫々の意味で protégal son であつた、結局子供の歩つて行く所はなつかしい親の膝しかなかつた。

折々子供のところへ訪ねる親達はそこにもこゝにも何かぼんやり見つめて居て、うれしい顔も見せようとしない子供達を見附けるのだつた。親を向へた子等の膝のうちに、すぐにもかおりついて其のなつかしい臭のうちにいだかれて思ひきりないて見たい熱い涙を一杯かゝまつて居た。其頃彼の緩には目立つて來た。

かつてはあれ程活氣に溢ちた緩全體を陰鬱にたちこめて來た憂鬱の密雲は、此處にもその理由の一端を見出す事が出來た。

死別色濃い憂鬱が彼の緩を閉ざした。緩てがおつとして此の事を考へ入つて居るかの様だつた。あんなに窓親しくして來た人につひには別れなければならぬのかと思ふとあたりが急に落漠たる感にさめきつた興味ないものになつて終ふのだつた一人の友が母親を失つた。親しい集ひが彼をなぐさめた或日、友は起つてかう云つた。遠くの窓に見入りながら、たゞ合はれないだけです。何處かにきつと生きて居ますと。静かにうつむいて聞いて居た、戸外からかすかなラッパの音をと歓聲がきこえて來る。新らしい時代を生む誕の鐘聲を送る、産病をしのんだ時代の宿を訪れた。其の頃緩のうちには、何かぶす〜燻ぶるものが感じられて來た。其は丁度何もかの爆發の直即の様に無氣味な折もあつたが、時々は嫉殘りの何ものかの様に意氣地無く成せられる折もあつた。

先生達も親達も、先輩たちも何うかして彼等もひきたて元氣づけ様とした。どうした元氣がないぞ、他達はこんなではなかつた。稚々なさゝやきが彼等の背後にもかはされ、まともにぶつけられたりした。

彼等は夏の中で云ひ合つた。このまゝ消えてしまう灯ではないぞと。

其頃彼は美しい青春の物語りをよみふけつて居つた、「櫻の實熟する時」「黒い眼、茶色の眼」「母宮貌師」「若きヴェルの懺み」「アルトハイデルベルク」と、其は生れたばかり毛子の様に多くの書物がよみ裕られて行つた。さうした黄金の青春のやさしくふくらんだ彼の胸に次々にうえつけられた數々のロマンスの人々の優しい名は永久に其を口ずさむ時彼の心に毛なやかに春をおもひ出させる事であらう。

ジエルトリユード、ナタージヤ、リビヤ、オルソ、ウロンスキー、おくみ、美き子——

其の頃彼の情緒は一時もおつとしてゐなかつた、ひとも時獨りとほ〜日暮の裏山にのぼlieb gehabt Kathie.

Von allen Menchen mur dich, などと小鳥にさゝやいてみたり直ぐ其後に自分でどうにもならない疲餘がかつ〜と無して來て、書中有女顔如王とか人間目目解嬌睡

老子山中暉翅醒

暉醒兩是濃葉

濃葉濃々水希々

など、自らを強いて女を馬鹿にしてみたり、友を見下そうとしたりした。

そして、彼はイプセンに心酔しだした。そしてイプセン流の凶暴な無神論な人間になりたとした。その時は總てが驚嘆の一語につきるかの様に思はれ撲へられぬ無感を自分の周囲へなげつけて居た。親子、師弟の愛情すらもうたがはれて青ざめた顔色に眼は血走つてきた。まさに理想の狂熱に取つつかれて居たのである。盲目の Fanatic であつた。

「義務が事實として證據で」られるものでないと云ふ事實だけ分かつて怪物扱ひ嘲緩扱ひにするイプセンの芝居なんを見る度に僕は慎重に撰へない」等と云ふ事は夢にも思はなかつた。

一途に「真理」を思ひつめた彼は「かのやうに」とあきらめてしまふ事が出來なかつた。「幸福」者に手を拍つて喜んだのも其頃である。

× ×

宇宙には必ず一つの意志がある。その意志に背く事の出來る人間で同時にその意識に目覚めて身を任せる事の出來るのも人間だ。前者はすべてを利害關係で見るが、後者はすべてを正不正で見る。前者は不正であつても得する事をのぞむ。それに反して後者は損をしても正しきを取らうとする前者は人間にあたへられた貧き物に縁のない人と云ふより仕方がない。いやそう云ふ人が自分のうちの貧いものを窒見させた人である。貧きものゝ生きる餘地を與へなかつた人である。

そして次第にイラ〜し懐疑の淵にたつ様になつた、彼は或る日暮嘆、嘆氣、嘔吐の繰り場で異常な光景に出會つた。如何なる過去を背負つた男か、手足を全く失つた一人の乞食がボロ〜のトタン板のうへに其の惨な肉體の切たはしをのせて、のろ〜と移動していくのだつた。唯かに異つた臨のしたに、くゝ〜と笑はれた、短い松葉杖が乞食の唯一の縋りである。

その鐵板と地面とすれ合ふ音が、にぶく週期的にぎーつ、ぎーつと響はするが、其の周囲の騒音に消され勝であつた。十七八人の人々が物見高く其の周囲へ集つて彼の乞食の前に投げ銭をコの字形にとりまいてゐた。

その中の一人の乞食が、ふいと顔を上げた。その顔は、眼窩の底深く沈み、眼光は鋭く、ぎらぎらと輝いてゐた。その男の、うなだれた首筋の、ぶるぶる震へる肩の、ぼろ〜の身體はもう脱け殻になつて居る。魂は中空を駆廻つてどこかへ散らばつて居る。諦の眼低な。此の子の生涯をどうして來れるんだと。

「魂」の脱け殻はふいと我に歩つつた。諦か低い聲で、見さえ靴底鐵を打ちませうか、呼び掛けた者がある。「寸指返つてみれば、薄暗い男がつぼを低くさげ眼をおづ〜と降上におとして近寄つて來る。瞬間の恐怖に彼は立ちどまりもしなかつた。其目、家へ帰つてから、はつきりとはその男のうなだれた姿しか何故か思ひ出されなかつた。程經て彼は、目まぐるしい新聞紙の片隅に靴、泥棒の記事を見附けた。先日の男の遺り口である。其の時、彼は何か悪い事をした様に思つた。

世の荒波にこきつかれた不幸な人にすまない事をした様に感じられて友に其の事件を話したら友は軽く sentimentalism だと云つた。

成程其の通りである。彼はまだ食客の身分である。脆弱もふらず勉强さへしてをれば良い時であつた。

しかし Sentimentalism か brunnhilism か其は知らぬが、已は衣食足つて禮節を知るが、人々のかたい義よりも、すべてを投げすて〜人の情にすがつて居る、あはれな人々をより身近に感じ、ときさまされた理想に退屈する人々よりも、高聲放歌みだらな笑をうかべる酔ひ人のがなつかしい。と彼は云つた。

しかし彼は温室育ちのもろ花にすぎなかつた。冷い現實の底にぶれ得べくもなかつたのだ。

道行く人の袂にすがる、哀訴のひとみの裏にひそむ絶望なものを見る事は出來なかつた。

皮一重の理性の陰にあふれ出ようとする情、駿かい人の情を感じ得べくもなかつた。程同じく冷たいからにつゝまれながらも所詮は弱い人間だつたのだ。

真理のに耐へ得べくもない弱い人間であつたのだ。彼等は何者かに保護されなくてはなるまい。廟僧のマスクをつけなければならないのである。

已は流れの岸のてくひだと云つた様に、何ものにも觀見されなかつた。程經て彼は、目まぐるしい新聞紙の片隅に靴、泥棒の記事を見附けてゐるのであつた。

「ハ、……月日とふものゝ働きの今更ながら強いのかな。人の一代と云ふ事思へば不思議のものがやなかの歩が尽げるまで忘れぬほど思ひ込んだ事も一ツ二ツと樹が脱げたり、幹が脱けたりして枯がにくなつて行くやうに、段々ゆるに近づくと云ふは、はゝ忘るし月日の力だ身にも苦しまいまで迷つたり、悩んだり、無い線は弟もないと悟つたりしたが、去何所となく心が惹かされて昔其其古い友達の太郎坊を今宵は太郎坊を手放さずに居つたのも思へば甘えしい。其の慕情口を落して其て放に返つた。今の今宵太郎坊を手放さずに居つたのも思へば甘えしい。其の慕情口を落して其て返して考へ出したのは、水を飲まうとの。ハ、……、水を飲まうとの。

それから種々と昔時のこと思ひ出してゐるのである。唯ストリーの進行上兩家の媒酌たるべきアーサーにオペラ・ハットの元氣が無かつた事は遺憾であつた。

亦無論この映畫のクライマックスは最後のハーモニカを吹いて亂舞する處であるがその中にパリモアが亡き愛妻を追想する處や、寺した事であるが夜間裁判で裁判長が寄附するシーン等誰が見ても感激する處であり亦後者等は最も良く調刺がきいてゐる様に思はれた。

要するに二時間の間我々をして夢想の樂園に彷徨せしめたこの映畫はあらゆる見地から見て非常に大きく買はれていゝ作品に違ひない。因みに此の原作はピュリツツア賞を得、映畫はアカデミの最優秀映畫賞と監督賞を得てゐる。

映畫雜感

我が家の樂園

C・2 純白生

ハリケーン。シカゴ。マルコポーロの冒險等唯物的スペクタクル映畫が本年度初期の洋畫界の人氣を奪つた今日我が家の樂園の如き凡そアメリカ映畫としては意外の感じのある靡調的信條をテーマとした映畫が封切られた事はそれ自身が既に驚異である。魂は中空を駆廻つてどこかへ散らばつて居る。諦の眼低な。此の子の生涯をどうして來れるんだと。

「魂」の脱け殻はふいと我に歩つつた。諦か低い聲で、見さえ靴底鐵を打ちませうか、呼び掛けた者がある。「寸指返つてみれば、薄暗い男がつぼを低くさげ眼をおづ〜と降上におとして近寄つて來る。瞬間の恐怖に彼は立ちどまりもしなかつた。其目、家へ帰つてから、はつきりとはその男のうなだれた姿しか何故か思ひ出されなかつた。程經て彼は、目まぐるしい新聞紙の片隅に靴、泥棒の記事を見附けた。先日の男の遺り口である。其の時、彼は何か悪い事をした様に思つた。

世の荒波にこきつかれた不幸な人にすまない事をした様に感じられて友に其の事件を話したら友は軽く sentimentalism だと云つた。

成程其の通りである。彼はまだ食客の身分である。脆弱もふらず勉强さへしてをれば良い時であつた。

しかし Sentimentalism か brunnhilism か其は知らぬが、已は衣食足つて禮節を知るが、人々のかたい義よりも、すべてを投げすて〜人の情にすがつて居る、あはれな人々をより身近に感じ、ときさまされた理想に退屈する人々よりも、高聲放歌みだらな笑をうかべる酔ひ人のがなつかしい。と彼は云つた。

しかし彼は温室育ちのもろ花にすぎなかつた。冷い現實の底にぶれ得べくもなかつたのだ。

道行く人の袂にすがる、哀訴のひとみの裏にひそむ絶望なものを見る事は出來なかつた。

皮一重の理性の陰にあふれ出ようとする情、駿かい人の情を感じ得べくもなかつた。程同じく冷たいからにつゝまれながらも所詮は弱い人間だつたのだ。

真理のに耐へ得べくもない弱い人間であつたのだ。彼等は何者かに保護されなくてはなるまい。廟僧のマスクをつけなければならないのである。

已は流れの岸のてくひだと云つた様に、何ものにも觀見されなかつた。程經て彼は、目まぐるしい新聞紙の片隅に靴、泥棒の記事を見附けてゐるのであつた。

「ハ、……月日とふものゝ働きの今更ながら強いのかな。人の一代と云ふ事思へば不思議のものがやなかの歩が尽げるまで忘れぬほど思ひ込んだ事も一ツ二ツと樹が脱げたり、幹が脱けたりして枯がにくなつて行くやうに、段々ゆるに近づくと云ふは、はゝ忘るし月日の力だ身にも苦しまいまで迷つたり、悩んだり、無い線は弟もないと悟つたりしたが、去何所となく心が惹かされて昔其其古い友達の太郎坊を今宵は太郎坊を手放さずに居つたのも思へば甘えしい。其の慕情口を落して其て放に返つた。今の今宵太郎坊を手放さずに居つたのも思へば甘えしい。其の慕情口を落して其て返して考へ出したのは、水を飲まうとの。ハ、……、水を飲まうとの。

それから種々と昔時のこと思ひ出してゐるのである。唯ストリーの進行上兩家の媒酌たるべきアーサーにオペラ・ハットの元氣が無かつた事は遺憾であつた。

亦無論この映畫のクライマックスは最後のハーモニカを吹いて亂舞する處であるがその中にパリモアが亡き愛妻を追想する處や、寺した事であるが夜間裁判で裁判長が寄附するシーン等誰が見ても感激する處であり亦後者等は最も良く調刺がきいてゐる様に思はれ